

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

unicef 

(財)日本ユニセフ協会
兵庫県支部

〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL.078-435-1605 FAX.078-451-9830

「すべての女の子に
教育を」



上)© UNICEF/Somia Yeo/2003
下)© UNICEF/UN/Eskinder Debebe/2003

2004年 始動 ~ 広がるみんなの力 ~

『ハンド・イン・ハンド』

2003年12月23日

1979年国際児童年から始まったボランティアが参加するユニセフ募金活動『ハンド・イン・ハンド』に、今年で2回目の参加となりました。兵庫県下5カ所(三宮、元町、西宮北口、宝塚、名谷)で行い、今年も晴天のもと約100名のボランティアが街頭に立ちました。3時間の活動で総額295,768円の募金が集まりました。

今年のテーマは「女の子も学校へ ~ すべての子どもに教育を ~」。世界中で1億2300万人の子ども達が小学校へ通えない現状です。今回の募金がその子ども達のために役立つことを願ってやみません。



イラン地震緊急街頭募金

阪神・淡路大震災から9年めの2004年1月17日、イラン地震緊急街頭募金を住吉で実施(募金額60,725円)。募金していただいた人たち、募金を呼びかけるスタッフ、みんなの胸に被災者への思いと共感がこみあげる気がしました。

イラン地震緊急募金のお願ひ

郵便口座: 00190-5-31000
財団法人日本ユニセフ協会
通信欄に「イラン地震緊急 K1-280兵庫」と明記

ご寄付は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。
送金手数料は免除されます。



これまでに開催した学習会

訪問日	訪問先	対象	人数
10月6日	姫路市立高浜小学校	小学6年生	123
10月19日	ガールスカウト第83団	小・中学生	15
10月26日	ガールスカウト第66団	小・中学生	29
10月28日	西宮市立南甲子園小学校	小学5年生	90
11月5日	明石市立王子小学校	小学6年生	54
11月5日	西宮市立樋の口小学校	小学5年生	146
11月7日	コープこうべはりま組合員まつり	組合員	25
12月4日	尼崎市立難波小学校	小学3年~6年生	400
12月9日	福崎町立高岡小学校	小学5・6年生	25
12月19日	神戸市立灘小学校	小学6年生	47
12月23日	ボーイスカウト西宮第12団	幼稚園~大人	25

ボランティア募集

日本ユニセフ協会は全国に13の支部がありますが、兵庫県支部は設立2年のフレッシュな支部です。スタッフも10代の高校生・大学生から、70(ん)歳までと、みんな若々しく楽しいメンバー揃い。ボランティア活動を通して、世界の子どもたちのことに目を向けてみませんか。関わり方は、学習会講師、教材作製、カード販売、広報誌作成、事務局運営etc.....。

いろいろありますが、平日はお仕事や学校等で忙しい方も、イベント参加のみでもOK!! まずは事務局までお問い合わせください。

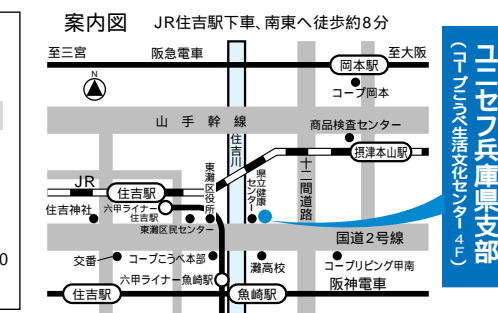
現在行なっているボランティア連絡会では、ミニ学習会も実施しています。

あとがき

寒さ本番の中にも、木々の新芽に新しい春の兆し。世界では戦争後の混乱や地震など辛いニュースが後を絶たない。日本も世界の一員としての参加を余儀なくされている。平和が失われてまず傷つくのは普通に生活している人たち、そして中でも子ども達。けれど新しい希望の力に溢れているのも、また子ども達だと思う。(K)

Wish Vol.7号(2004年冬)
ユニセフ兵庫ニュース

2004年(平成16年)1月発行(季刊)
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830
(平日の10時~16時)



本紙は再生紙を使用しています。

毎日新聞社会部「**惨劇越えて**」 2003年11月29日
一色昭宏記者
西アフリカ・シエラレオネからの報告に参加して



毎日新聞社提供

毎日新聞・一色昭宏さんによるシエラレオネの現状報告は、のっけから私に深い衝撃を与えた。
手足切断作戦。それは数千人もの罪無き人々に対して行われた、反政府軍によるこの上なく卑劣な行為。そしてそれは生き地獄のような苦しみを、今なお人々に味わわせ続けている。



それから子ども兵の問題。反政府軍は村や学校を襲撃し、子どもたちを誘拐。少年だけでなく、少女にも銃を持たせた。そして麻薬で気分を高揚させておき、まず子どもたちに自分の住んでいた村を襲わせた。彼らから帰る場所を奪い取るために。こんな恐ろしいことが、こんな残酷なことが、この世で起きていたのか…。私は愕然とした。
シエラレオネではダイヤモンドの利権を巡り、91年から政

府軍と反政府勢力との戦闘が続いた。02年1月によく両者間の武装解除が完了したが、長く続いた内戦の傷跡は今なお深い。
一色さんの懇切丁寧な説明とスライドを使っただけの報告のおかげで、シエラレオネについて全く無知な私でも、現状を理解することが出来た。難民問題、劣悪な衛生状態にあるスラムの実態、等等。

そして最後に一色さんが触れられていたのは支援のあり方についてだ。シエラレオネで活動する唯一の日本のNGO「ピースウィンズ・ジャパン」が現在井戸掘りなどの支援にあっているが、現地の人に「隣の村は 国の人たちがxxを作ってくれた。あなたたちはいつ私たちにxxを作ってくれるのか」と言われるという。土足で入ってはいけなく、周りで洗い物をしてはいけなくといった井戸の正しい使い方を説明しても、自分たちで作った物でないせいか、一向に守らないそうだ。水・食料・医薬品などの緊急支援物資は別としても、現地の人自分たちの手でより良い暮らしを手に入れることが出来るよう、「与える」ばかりでなく「指導していく」、そんな支援の重要さを感じた。

この報告会は、私にとってとても有意義なものとなった。辛く厳しい現実と向かい合いながらも力強く生きるシエラレオネの人々に対し、一人のボランティアスタッフとして何が出来るのか、そして争うことの無意味さをどう世の中に訴え続けていけば良いのか、改めて自分の境遇に感謝しつつ、考えていきたいと思う。(村上貴子)

【参加ボランティアの感想】

Hand in Hand 2003



三宮会場

- 神戸のほうが、姫路より、多く入ったと思った。ガールの活動だけでなく、ユニセフの活動も良かった。(田淵)
- 全体的に最初は募金スタッフに元気がなかったが、元気が出て来るに伴い、募金者も増えていったと思います。スタッフの一生懸命な気持ちが募金者に伝わってよかった。参加してよかったと思います。(原)
- たくさんの方の厚志を頂き、募金を有効に活用していただけたらとの思いが湧いてきました。今後も、ユニセフ活動に協力していきたいと思っています。(伊藤ハム/谷口)
- 今まで何度か募金はさせていただきましたが、いくらでもできるというわけではないので、今回は、

体を使って協力しようと参加をお願いしました。募金して下さる方はまれですが、その方々が、とてもありがたく思いました。(佐藤泰子)

- 今日は初めての街頭募金だったけど、とても楽しかったです。たくさんお金を入れて、募金に協力してくれる人もいたけど、無視する人がいたのが悲しかった。今後、また機会があれば協力したいです!!(岸川真子)
- 募金活動は初めてだったので、とても良い経験をさせてもらったと思いました。最初は緊張したけど大きな声を出して言えたので、嬉しかったです。自分が、する立場になったら、いろんなことを考えさせられました。時々しか募金してなかったけど、どんどんしていきたいです。私も将来ユニセフしたいかも…。だからまた呼んでください。(大屋優子)
- 去年もやったので少しやりやすかったです。気のせいかもしれませんが、去年より募金してくれる人が増えた気がしました。(孝田裕美)
- 募金活動に参加するのは初めてで、いつも自分



元町会場

は募金活動を見ているだけだったけど、今日やってみて、募金活動の苦労が良くわかりました。これからは、この活動を積極的にしたいなあと思えました。(望月裕佳里)

- 少しでも募金にご協力させていただいたこと、感謝しています。また、この機会があれば、念参加したいと存じます。なにぶん高齢ですので、あまり、思ったほどできなかったこと、残念に思っています。これからもよろしく。(村上)
- まず、遅れてまいり、相済みませんでした。募金箱を持つ人は、説明の極小チラシを渡してほしい。募金いただく、感激するので、即お手渡しをしたいと思います。(幼児用の紙貯金箱も、はてな?と思わせ注意を引く効果は十分ある)若い人、青少年、とくに若いOLさんなどは、Eメール・ネットで知っているから、こっちは質問などされるとおたおたするに違いなし。(大柳)
- 昨年と比べると、人の動きが少なかったです。(ポ一イスカウト神戸17団一同)
- みんな冷たいムシになって、でもいい人もいた。思いっきり避ける人もあった。(祖田久里子)

はたっこ太鼓
チャリティコンサート

神戸市北区八多町の「はたっこ太鼓」が12月21日神戸朝日ホールで、「イラク戦争で傷ついたイラクの子どもたちへの支援コンサート」を開きました。中・高生のメンバーで練習から演奏、進行のほとんどを自分達で実施。Be With You! ホール全体が一体となって力強い演奏を披露してくれました。当日の収益の一部と募金(201,268円)が県支部に届けられました。「はたっこ太鼓」のみなさん、ありがとうございました。



上「感動した」と演奏終了後挨拶される竹本会長
左「はたっこ太鼓」メンバーの練習の様子(写真は神戸新聞社提供)

イラク児童画展開催



2003年12月10日～15日、コープこうべ生活文化センター1階にて開催。イラク北部のクルド人自治区スーレマニアのユニセフ事務所から、第12回カナガワピエンナーレ国際児童画展(主催:神奈川県、企画運営:(財)神奈川県国際交流協会)に出品された、子どもたちの絵100点の中から50点を展示。イラク戦争後の過酷な状況の中で暮らす子どもたち。しかし、そんな彼らの絵が色彩に溢れていることに、まず驚きと感動が広がる。子どもたちの故郷を愛する気持や、将来への夢、そして願いを、豊かに伝えている。



イラクって言えば、今「戦争」というイメージしかないのです。子ども達の様子がわかる絵で、なんと明るいでしょう。この感じを失わせたくない。(50)

とても明るい色彩で丁寧に描かれた絵だと思いました。あまりにも「ふつうの暮らし」が描かれていて、逆に驚きました。これが、今の彼らの日常生活を切り取ったものであれば良いのですが……子どもを持つ親となって改めて子どもにふつうの暮らし・ふだんの暮らしをさせてやれることの大切さ、ありがたさを感じます。(30歳代女性)



西宮北口会場

- 子どもさんに促されてファミリーの方が関心を持って下さるのがうれしい。(女性)
- 一人ひとりに十分に気持ちを短時間で伝えるのが難しい。思ったほど声を出せないのが恥ずかしかった。特にチラシを配るのが、恥ずかしかった。(大学生)
- あんまり声を出せなかったけれど、だんだん声を出せるようになった。(小6)
- だんだん寒くなってきた。なるべく早く女の子が学校に行けるようになってほしい。(高2)
- 街頭募金の回数を増やしてほしい。(高校教師)
- 声を出して呼びかけるのが、気持ちよかった。(男性)
- みんな協力してほしいと思った。(高3)
- 募金してもらって嬉しかった。(高2)
- 去年も参加したので、慣れたもんだ。途中から寒くなった。(小2)
- 募金箱がだんだん重くなった。(小4)



宝塚会場

- 初めて、参加しました。暖かい日でしたが、名谷駅の場所は日陰で、時折冷たい風が吹きつけ、12月も23日、さすがに寒かったです。今回、娘と参加したのですが、募金して下さる方々に、励ましの言葉とともに募金を頂き、有意義な時間を過ごさせていただきました。今後このような活動に積極的に参加させていただきたいと強く思った一日でした。(広永美千代)



名谷会場

- まず募金をして下さった方には、ほんとうにありがとうございました。どちらかといえば女性の方が多かったと思います。高齢のご婦人が手にぎった小銭を隠すように入れて下さった時には、涙が出そうになりましたが、りっぱな身なりの方が聞こえないようなふりでも、しらん顔をして歩いていかれる姿には、つくづく「人間は、外見じゃないなあ(心の温かさは)」と思いました。そしてもっと子どもを持つ母親達にユニセフについて関心を持っていただきたいと思いました。短い時間でしたが、色々考えさせられた貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。(平村誕生子)

子どもと大人の関係

～「グローバルフェスタ」(豊富小・姫路市)に参加して～

「世界にはさまざまな人がいるということを知り、平和な世の中を作るきっかけにしてほしい」そのような願いを込め、20カ国近くの外国の方々を迎えて11月27日に姫路市立豊富小学校で開催された「グローバルフェスタ」に参加しました。

豊富小では、学内の外国人生徒に対して、日本への同化ではなく、彼らの国や文化を尊重した環境を整えるという取り組みを通じて内からの国際化を進めており、相手を知ることの重要性を子ども達に伝えているように思いました。先生方の、子どもの教育に対する意識の高さが見えて、改めて子どものために親や教師など周りの大人が積極的に動くことの重要性を強く感じました。

ユニセフの活動の主体は子どもですが、やはり子どもにとって一番身近な大人達にいかにか働きかけられるかにかかっているのではないのでしょうか。難しい課題ですが、ユニセフ活動を通じて自分なりのアプローチ方法をこれからも探して行きたいと思っています。

(川本朋子)



ユニセフハウスに行ってきました

11月12日に品川のユニセフハウスを見学してきました。この日の午前中は修学旅行生が2組見学に来ていました。静岡から来た小学生の一行は、まず一階のホールでインターン生のお話とビデオを見た後、5班に分かれて説明を聞いていました。説明をするのは私達と同じボランティアの皆さんです。スタッフジャンパーを着て、各々25名弱の生徒に話します。大きな声で元気よく話す方もいれば、小さな小さな声で話す方もいらして、本当にいろいろあってよいのだと実感しました。だって、どちらの小学生達もちゃんと聞いていたのですから。

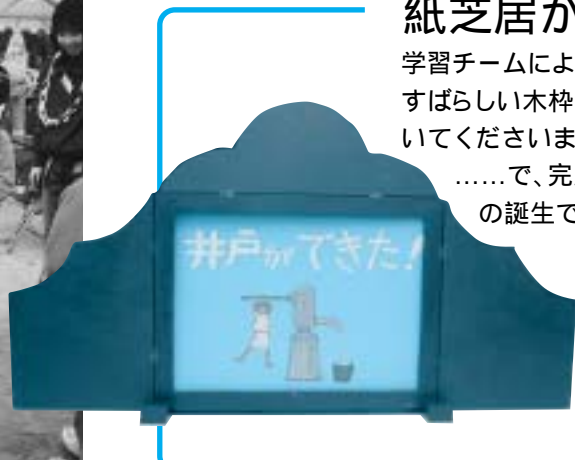
ユニセフハウスは、1階は大きな壁面等を利用して、ユニセフの歴史や世界の状況を展示説明しています。ショップも有、実物はカタログで見るより、ずっと素敵でした。2階は、安全な水、児童労働、子どもの兵士、教育、地雷など、部門別の展示コーナーがあり、各々自分でビデオをみることもできます。片隅には現地を使うテントも張っており、その中に小学生達が入って説明を聞いていました。

ここユニセフハウスはすぐに目で見て分かるようになってきています。是非、皆さまも東京に行かれた折にはお立ち寄りください。(信貴やよい)



紙芝居ができました

学習チームによる紙芝居『井戸ができた』が完成しました。すばらしい木枠は中村耕作さん作、絵は杉山三千さんが描いてくださいました。シナリオはチームみんなでワイワイ……で、完成。身近な“水”問題を語る立派な小舞台の誕生です。



ユニセフカップ西宮マラソン [11月9日]



マラソンランナー有森さんを囲んで!

第4地区ボランティア大会でのカード販売
生活文化センター2Fホール [11月22日]



セクスイハウス 神戸市西区
「わくわくらしのフェア」 [12月6～7日]



赤穂ロータリークラブから創立50周年記念事業の一環として「アフガニスタン学校建設1万ドル募金」に協力いただきました。ありがとうございました。

KOBEホテル6社による チャリティーイベント

神戸ハーバーランドニューオータニ、神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ、神戸ポートピアホテル、神戸メリケンパークオリエンタルホテル、新神戸オリエンタルホテル、ホテルオークラ神戸の6社が共同でチャリティーイベントを企画され収益金を寄付いただきました。ありがとうございました。

グランシェフ6人の饗宴
ホテルの一流シェフが腕をふるい
パーティを開催。 [9月2日]



竹の台フェスタ 神戸市西区 [10月5日]



水がめ“体験”と
紙芝居で地区の
人たちと交流!



移情閣コーラスグループ 舞子ピラ
15周年チャリティーコンサート [12月14日]



演奏終了後、コンサート収益金の一部と募金を
贈呈いただきました。

クリスマスチャリティー
12月の期間ホテルロビーに
募金箱を設置。



ユニセフスタディツアー inネパール

日本ユニセフ協会兵庫県支部
評議員 古河恵子



2002年3月に日本ユニセフ協会の兵庫県支部が誕生しました。県下一円にユニセフへの深いご理解と、支援活動の輪がますます広がっていくための、ユニセフスタディツアーに参加させて頂きました。まずスタディツアーに参加する人は、必ず事前研修を受けます。訪問国についての情報と事前の学習が大切だからです。そのことは現地に行き体験することに「なるほど」と思いました。

また事後の振り返り研修も同じくらいに大切です。皆様にネパールのお話を出来た事は、私自身一番の「事後研修」になり、感動の持続と考え方や日々の活動の励みになります。

雄大なタライ平原が飛行機の窓いっぱい広がります。緑豊かな大地とそこに住む質素で高潔な人々が、私たちスタディツアーメンバーを待っています。ワクワクはずむ気持ちと、今回の「旅の目的」について機内では資料に目を通していました。

ユニセフが支援する5つの目的は
子どもに対するケアの改善 女性に対するより良いケア 質の高い基礎教育へのアクセス よりよい保健サービス 安全な飲み水

到着しましたネパールの首都カトマンズでは(9月の終わりから10月)丁度雨季と乾季の狭間で、一年中で一番過ごしやすい気候、美しい季節でした。山間部では雨期の名残で川の流が茶色に見え、あちこちで土砂崩れが起きていました。燃料が薪なので、山の木を切りすぎたためです。

カトマンズ市内は人・車・牛・自転車が道路上で交錯し、その上ネパール独特の細かい砂漠の砂が舞い上がり、窓を開けて写真を撮ろうものなら、あっという間に車内は黄色くなり、目を開けていられなくなります。「ネパールに着いたのだ」と確信、感動しました。

さっそく警備厳重なカトマンズユニセフ国連ハウス内で、我々一行はネパールの現状と問題点について現地スタッフより説明を受け研修しました。

ユニセフの現場主義が本当であることを体験し、政府と地域住民が継続可能なプロジェクトの作成を研修させて頂きました。

現場スタッフが生活、環境、教育、保健衛生など人々



が気づき改善する事を進めながら、生活の質の向上をはかり地域住民の自主自立を大切にする、サポートのあり方は大変困難であることだが、勉強になり感動しました。

特にスンサリ県ドウムラ村では低カーストで土地を持たない貧しい人々が暮らしています。働く子どもの学校外教育を、ユニセフが建てたコミュニティハウスで行っています。(一日2時間学び9カ月が1コースです)どの子ども熱心に勉強していました。

子どもたちは朝早くから働いています。わずかな給金で家計を助け制服を買い、母親に文字を教える子どももいます。どの子どもも学ぶ喜びで瞳はキラキラ輝いていました。

またその村では給食活動にも力を入れていました。ネパールでは5歳児未満の死亡率が高く過去10年間で1000人当たり108人だったが、今では91人に減少しています。ユニセフの離乳食や栄養指導と母親の気づきを大切に進めた成果だと思えます。



生活改善グループの女性たちと

ユニセフと地域住民と政府が参画し水道設備が完成されました山間部の村では、遠くから水瓶を背負い水を汲みに子どもたちがやって来ています。厳しい環境下のネパールでは、このような設備がまだまだ足りません。ほとんどが共同の井戸水です。そしてトイレのある家庭もごくわずかで病気にかかる子どもたちも多く、不衛生であることを知る保健衛生教育にも力を注いでいました。

男女共同参画にはほど遠いネパールの女性たちは、結納制度(ダウリー)嫁側から婿側に支払う結納金が若いと安いので14歳前後で労働力として結婚します。子どもを3年以内に産まないで離婚され、10年たっても男の子が出来ないと離婚される、家畜のような過酷な結婚生活を強いられていましたが、ユニセフと政府と階級の高い女性たちが作る生活改善グループの活動や支援で、徐々に女性の経済的自立も進んできました。その事でまず女性の死亡率が減り、家庭



働く子どもたちの学校の様子



の中で発言権を得、社会の中にも出られるようになり、女性が人間としての権利を主張出来るように、社会全体が少しずつ変わって来ています。

帰路につく飛行機の窓から、ネパールの心雄大なタライ平原が広がります。人々の夢と希望をはぐくむ大地、ヒマラヤ山脈はネパールの人々の誇りです。出会った人々一人ひとりが思い出されます。

母親が死に実の父親に売られ、6歳から工場死ぬまで働く子どもの顔が浮かびます。ユニセフの支援活動は政府と地域住民とユニセフ現場スタッフで3つの共有化を図り今日も頑張っております。

1. 生活の中で問題点を意識し共有します。
2. その改善のための目標を共有します。
3. 目標を達成し成果を共有します。

私は遠い日本から世界中の現場スタッフに、エールを送り続けたいと思いました。そして兵庫県支部の仲間たちに、体験したことをお伝えすると共に、ユニセフへの支援活動を共に頑張っていきたいと心から思いました。

お知らせ

ユニセフのつどい

兵庫県支部設立2周年

「世界のともだちと心をつなごう」

と き：2004年3月21日(日)11時~14時30分

会 場：コープこうべ生活文化センター2階ホール(JR住吉駅から徒歩8分)

午前の部

「イラク報告会」

戦禍のイラク南部を、アグネス・チャン氏に同行し訪問された、日本ユニセフ協会広報室長森田明彦氏からの報告です。

募金贈呈式

KOBEホテル6社会
伊藤ハム株式会社 他

参加は無料です
会場の準備の都合上ご予約ください。

お申込み、お問い合わせは
兵庫県支部まで

TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

主催：日本ユニセフ協会兵庫県支部 / 後援：コープこうべ / 協賛：神戸YMCA

午後の部

世界の人たちとの楽しい交流サロン

サムルノリ(民族打楽器の演奏)
朝鮮文化研究会・高校生(兵庫県立神戸甲北高等学校)による
交流タイム
~ アジア圏を中心にいろんな国の人たちと ~
Let's Talk

同時開催

長島義明さん写真展「みんなともだち」

3月16日(火)~26日(金)9:00~20:00(最終日は16:00)
コープこうべ生活文化センター1Fロビー

KOBE 国際交流フェア 2004

と き：2004年2月29日(日) 11:00~17:00
と ころ：ハーバーランドスペースシアター&デュオドム

ユニセフも出展します!